

<参考1:これまでの出来事>

谷津干潟周辺におけるこれまでの出来事

年	谷津干潟をとりまく出来事	検討会等
年号	西暦	
明治 44 頃	1911 頃	・遠浅の砂浜を利用して入浜式塩田による製塩が行われていたが、度重なる暴風雨により廃業
大正 14	1925	・京浜電鉄が海浜レジャー用地として谷津干潟を含む塩田約 75ha を買収、その一部(約 30ha)を谷津遊園として整備
昭和 15	1940	・港湾施設及び利根川・江戸川放水路整備を図るため、内務省及び運輸通信省が京浜電鉄から谷津干潟を含めた約 50ha を買収
昭和 18	1943	・太平洋戦争のため放水路整備計画を中止
昭和 30	1955	・用途廃止により、大蔵省普通財産へ引継ぎ
昭和 39	1964	・京浜港第一期第一埋立により袖ヶ浦地区の造成開始
昭和 46	1971	・京浜港第 2 次埋立事業開始(千葉県企業庁、～1974 年迄)
昭和 56	1981	・東京湾岸道路のうち、国道部分(357 号)が開通
昭和 57	1982	・東関東自動車道が開通、谷津遊園が閉園
昭和 59	1984	・習志野地区共同福利施設建設事業開始(環境庁(環境事業団)、千葉県、習志野市)
昭和 63	1988	・11 月に環境庁が谷津干潟を国指定谷津鳥獣保護区(41.2ha)に設定。一部(40.1ha)を「特別保護地区」に指定。
平成元	1989	・谷津干潟公園を習志野緑地に追加都市計画決定 ・谷津干潟が大蔵省から環境庁に所管換え
平成 5	1993	・6 月 10 日に谷津干潟がラムサール条約登録湿地(40.1ha)となる。
平成 6	1994	・谷津干潟自然観察センターが開設、谷津干潟公園が全面開設
平成 7	1995	・谷津干潟保全のための三者協議開始(環境庁野生生物課、千葉県自然保護課、習志野市公園緑地課)
平成 8	1996	・谷津干潟が東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワークに参加 ・谷津干潟環境保全交流会の開催開始
平成 9	1997	・6 月 10 日を「谷津干潟の日」に制定
平成 10	1998	・オーストラリアのブリスベン市と習志野市の湿地提携の調印
平成 11	1999	・湿地提携第 1 次 5 ヶ年計画調印(ブリスベン市・習志野市)
平成 15	2003	・湿地提携第 2 次 5 ヶ年計画調印
平成 17	2005	・「谷津干潟アオサ等業務検討会」(2005・2007 年度)
平成 20	2008	・「谷津干潟渡り鳥鳥類生息環境保全検討会」(2008 年度)
平成 22	2010	・「国指定谷津鳥獣保護区保全事業の実施 ・「国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会」(2010 年度～)

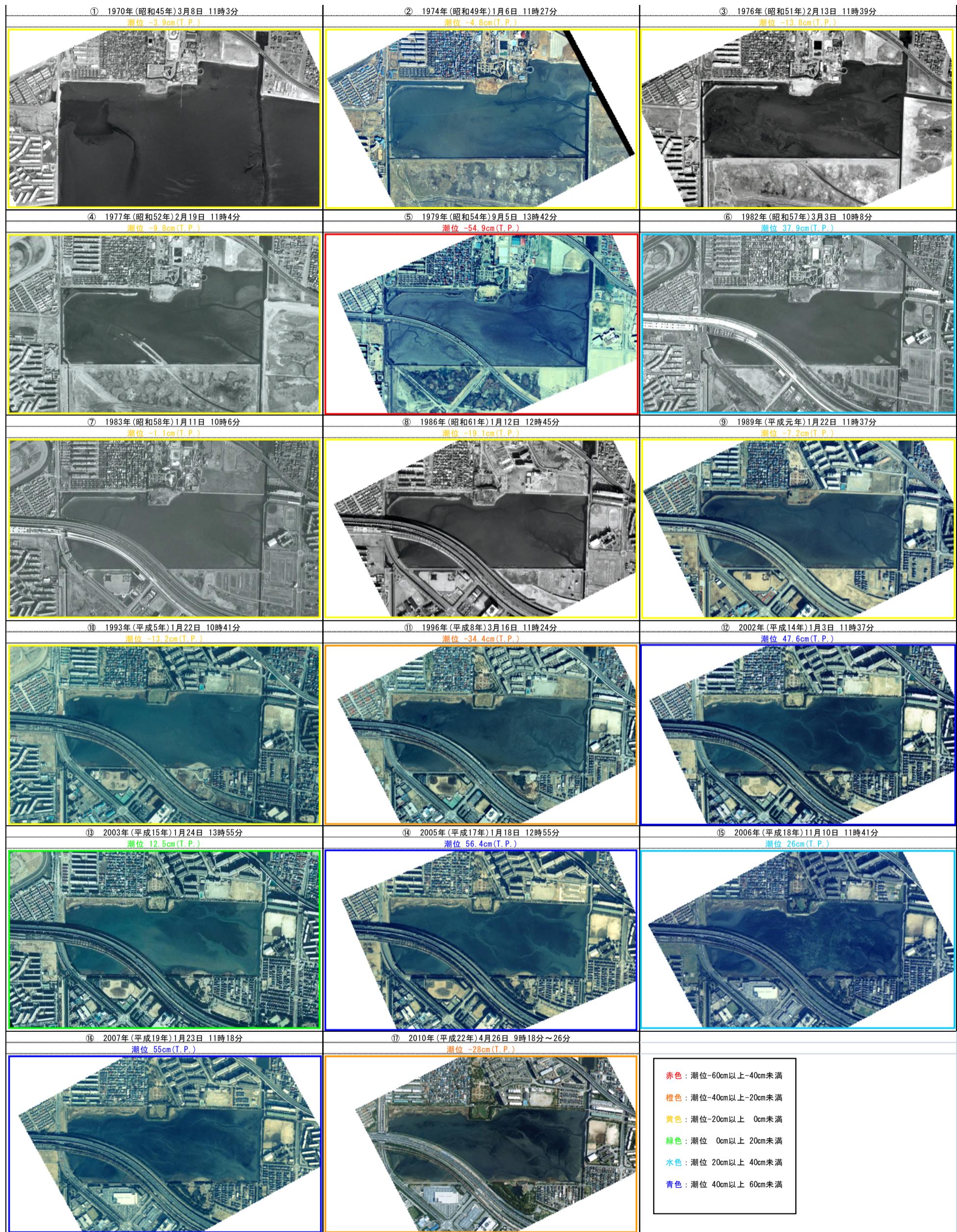
出典:「谷津干潟自然観察センターHP」

「平成 7 年度 谷津干潟環境調査報告書、平成 8 年 3 月、環境庁・千葉県・習志野市」

「未来のために 谷津干潟とブーンドル湿地の過去と現在と未来への報告、習志野市・ブリスベン市」

「平成 20 年度 国指定谷津鳥獣保護区の更新及び同特別保護地区の指定に係る自然環境及び社会環境調査 報告書、平成 20 年 3 月、株式会社 環境管理センター東関東支社」

<参考2:空中写真の変遷>



谷津干渉周辺における空中写真の変遷

出典:(②・③・⑮)国土地理院 撮影、(左記以外)京葉測量株式会社 撮影

＜参考3:収集資料一覧＞

収集資料(報告書)

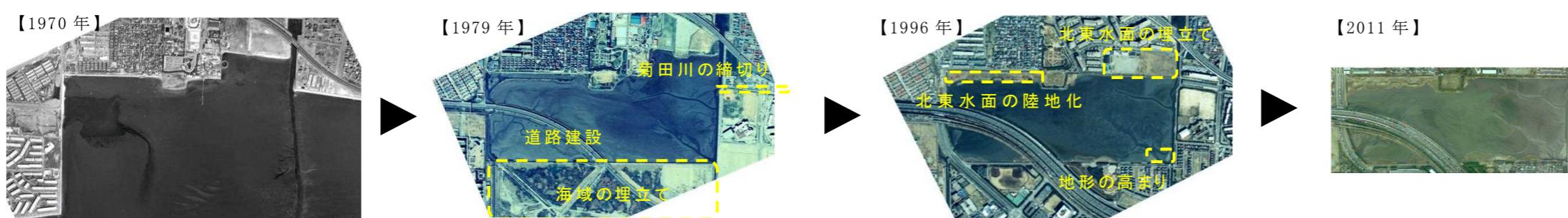
番号	報告書名	発行者等	発行年月
1	昭和50年度 習志野市の自然環境と生物相(習志野市内自然環境調査)	秋山章男	—
2	昭和59年度 習志野地区(谷津干潟周辺)共同福利施設に関する事前調査報告書	公害防止事業団・(社)環境情報科学センター	昭和59年11月
3	昭和60年度 習志野地区(谷津干潟周辺)共同福利施設に関する事前調査報告書	公害防止事業団・(社)環境情報科学センター	昭和61年2月
4	昭和60年度 習志野地区共同福利施設実施基本調査業務報告書	公害防止事業団・国際航業株式会社	昭和61年3月
5	昭和63年度 習志野地区(第2期)共同福利施設基本計画現況調査報告書	公害防止事業団・財団法人都市緑化基金	平成元年11月
6	平成7年度 谷津干潟環境調査報告書	環境庁・千葉県・習志野市	平成8年3月
7	平成8年度 国設谷津鳥獣保護区保全管理計画策定調査報告書	財自然環境研究センター	平成9年
8	平成10年度 国設谷津鳥獣保護区環境状況調査事業報告書	株式会社環境管理センター	平成11年3月
9	平成13年度 谷津干潟保全委託業務報告書	財日本野鳥の会	—
10	平成13年度 国指定谷津鳥獣保護区に係る水鳥類の採餌等環境調査 報告書	財日本野鳥の会・環境省南関東地区自然保護事務所	—
11	平成14年度 谷津干潟保全委託業務報告書	財日本野鳥の会	—
12	平成15年度 谷津干潟保全事業委託業務報告書	財日本野鳥の会	—
13	平成15年度 国指定谷津鳥獣保護区に係る水鳥類の採餌等環境調査 報告書	財日本野鳥の会	平成16年3月
14	平成17年 谷津干潟アオサ対策等 検討会業務 報告書	環境省自然環境局 野生生物課	平成18年3月
15	未来のために 谷津干潟とブーンドル湿地の過去と現在と未来への報告	習志野市・プリズベン市	—
16	平成18年度 谷津干潟アオサ対策等検討会業務 報告書	環境省・関東地方環境事務所	平成18年9月
17	平成18年度 谷津干潟アオサ対策等検討夏季現地調査業務 調査報告書	芙蓉海洋開発株式会社	平成18年10月
18	平成18年度 谷津干潟アオサ対策等検討秋季現地調査業務 調査報告書	芙蓉海洋開発株式会社	平成18年12月
19	平成18年度 谷津干潟アオサ対策等検討冬季現地調査業務 調査報告書	芙蓉海洋開発株式会社	平成19年2月
20	平成18年度谷津干潟アオサ対策等検討 アオサ生育状況調査業務 報告書	株式会社 水棲生物研究所	平成19年2月
21	平成18年度 谷津干潟アオサ対策等検討調査結果分析業務 報告書	環境省・関東地方環境事務所	平成19年3月
22	平成19年度都市部の国指定鳥獣保護区「谷津干潟」における渡り鳥類の生息環境の保全に関する研究委託業務報告書	特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合	平成20年3月
23	平成20年度 国指定谷津鳥獣保護区の更新及び同特別保護地区の指定に係る自然環境及び社会環境調査 報告書	株式会社 環境管理センター東関東支社	平成20年3月
24	平成20年度都市部の国指定鳥獣保護区「谷津干潟」における渡り鳥類の生息環境の保全に関する研究委託業務報告書	特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合	平成21年3月
25	平成21年 国指定谷津干潟鳥獣保護区における客土がシギ・チドリ類の餌料環境に与える影響調査業務報告書	特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合	平成22年3月

## 収集資料(科学論文)

番号	文献名	執筆者	雑誌名	巻、号	ページ番号	発行年
1	千葉県谷津干潟におけるチドリ科ダイゼンPLuvialis squatarola(Linnaeus)の採食行動と食性	桑原和之	我孫子市鳥の博物館調査研究報告	Vol.5	Page125-140	1996
2	東京湾奥部谷津干潟の1986-87年冬期における底質環境ならびにマクロベントスの生息状況と垂直分布	風呂田利夫・鈴木嘉平	日本ベントス学会誌	Vol.54	Page36-43	1999.08
3	主要環境構成因子による干潟の分類と谷津干潟の変遷	石井裕一・村上和仁・瀧和夫	第14回環境情報科学論文集	—	Page.213-218	2000
4	東京湾奥部に位置する潟湖化干潟の遷移特性	村上和仁・石井裕一・瀧和夫・長谷川昭仁	海岸工学論文集	Vol.47, No.2	Page1121-1125	2000.10
5	埋立てから取り残された自然干潟の生態系バランスと環境構成因子	石井裕一・村上和仁・石井俊夫・立本英機・瀧和夫	海洋開発論文集	Vol.17	Page129-134	2001
6	東京湾奥部に位置する潟湖化干潟におけるアオサの栄養塩類吸収特性	石井裕一・村上和仁・矢内栄二・石井俊夫・瀧和夫	海岸工学論文集	Vol.48, No.2	Page1136-1140	2001.10
7	高密度都市域における潟湖化干潟の生態工学的特性	石井裕一・村上和仁・瀧和夫・立本英機	海岸工学論文集	Vol.49, No.2	Page1291-1295	2002.1
8	谷津干潟および周辺地域におけるシギチドリ類群集構造の変化	鈴木弘之・芝原達也	Strix	Vol.21	Page.35-52	2003
9	現地観測に基づく春季の谷津干潟におけるアオサの流入特性	矢内栄二・早見友基・五明美智男・村上和仁・瀧和夫・石井裕一	海洋開発論文集	Vol.20	Page341-346	2004
10	谷津干潟におけるアオサの流動特性	矢内栄二・早見友基・井元辰哉・五明美智男	海洋開発論文集	Vol.22	Page601-606	2006.06
11	谷津干潟におけるアオサの異常繁茂と干潟環境への影響評価	矢内栄二・早見友基・井元辰哉・五明美智男	海岸工学論文集	Vol.53, No.2	Page1191-1195	2006.10
12	谷津干潟におけるアオサの繁茂特性に関する現地調査	矢内栄二・石井健一・井元辰哉・五明美智男	海洋開発論文集	Vol.23	Page465-470	2007.06
13	谷津干潟における鳥類および流入排水負荷の検討	矢内栄二・石井健一・小野寺一剛	海洋開発論文集	Vol.24	Page735-740	2008.06
14	秋季の東京湾の栄養塩収支における谷津干潟の機能評価に関する現地観測	和田麻美・大城亨太・鯉渕幸生・佐藤慎司・磯部雅彦	海岸工学論文集	Vol.55, No.2	Page1126-1130	2008.10
15	日本の谷津干潟のUlva spp.繁殖分布に影響する因子	Yuichi ISHII, Yoshimasa AMANO, Kazuo TAKI	環境情報科学	Vol.37, No.5	Page67-72	2009
16	人工干潟や塩沼湿地で大発生するグリーンタイドの抑制に関する検討	西川智貴・武田尚大・矢持進	土木学会論文集B2(海岸工学)	Vol.B2-65 No.1	Page1221-1225	2009
17	日本の谷津干潟において浮遊性アオサによって形成されるグリーンタイド	Tohru Yabe, Yuichi Ishii, Yoshimasa Amano, Tsunenori Koga, Seiji Hayashi, Seiichi Nohara, Hideki Tatsumoto	Limnology	Vol.10, No.3	Page239-245	2009.12
18	谷津干潟における2010年夏季のアサリおよびホンビノスガイの殻を用いた成長速度算出と死亡時期推定について	杉原奈央子・宮地鼓・藤巻亮・岡本研・棚部一成・風呂田利夫	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会	—	Page158	2010.1
19	谷津干潟における気象条件とアオサ繁茂の関係について	瀧和夫・中嶋泰	土木学会第65回年次学術講演会	—	Page49-50	2010.9

<参考4:環境の変遷>

■干潟の変遷



【谷津干潟における干潟の変遷】

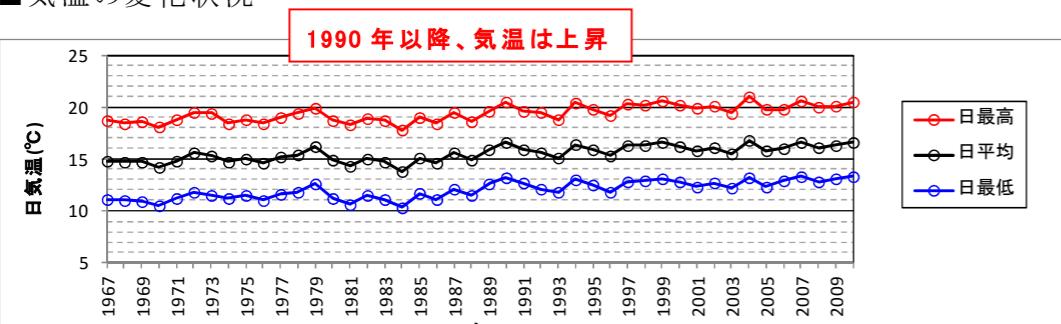
- ・1970年代に周辺海域が埋立てられ、菊田川水路の締切り、道路建設が行われた。1980年代に北東水面の埋立て、1990年代に北西水面の埋立てが行われた。
- 1996年の空中写真では、谷津川の接続部付近に、島状の地形の高まりが確認できる。

【濠形状の変化】

- ・当初は西側・東側で小さな濠が複数確認できますが、西側では濠が徐々にみられなくなっている。東側では菊田川水路の締切り後、北側の濠の一部が埋没、濠の長さが短くなっている。
- ・南側の濠は上流側が長く伸びるようになり、谷津川の接続部付近にヨシ島が形成された。その後、流路がヨシ島を迂回するように大きく蛇行し、南側護岸に向かう現在の流路となっている。

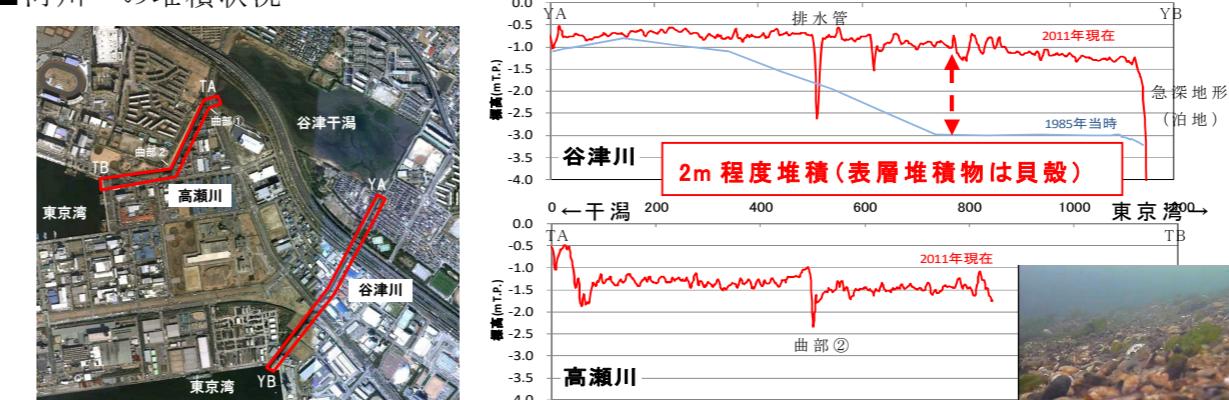
出典:1970年・1996年:京葉測量株式会社 撮影/1979年:国土地理院 撮影/2011年 関東地方環境事務所 撮影

■気温の変化状況

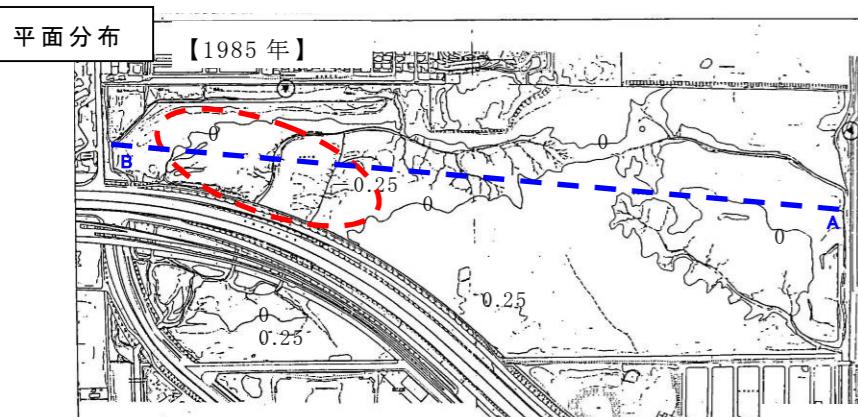


出典:気象庁 HP 気象統計情報よりダウンロードした「千葉」のデータをもとに作成

■河川への堆積状況

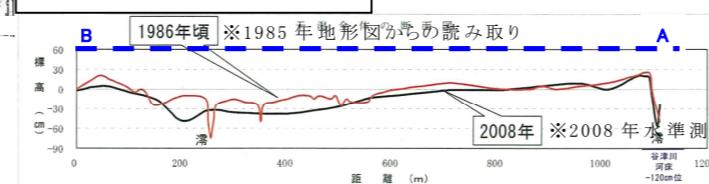


■地形の変化状況

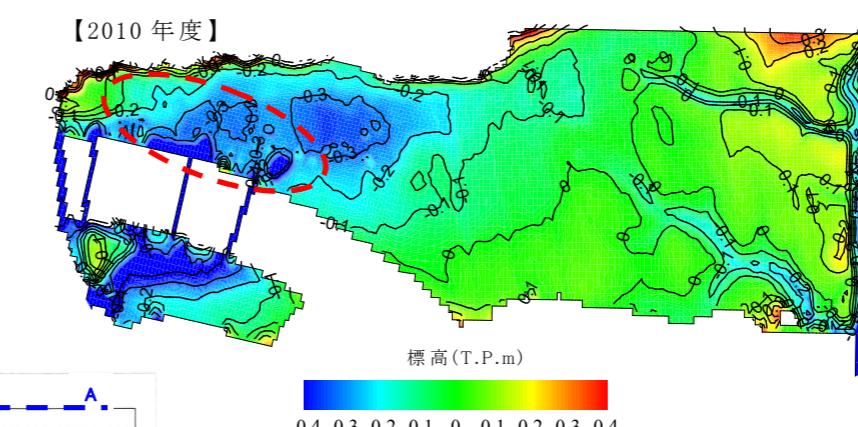


濠の周辺が掘れて埋地化

同一測線における断面形状



出典:「昭和63年度 習志野地区(第2期)共同福利施設基本計画現況調査報告書、昭和61年3月、公害防止事業団・財団法人都市緑化基金」



出典:関東地方環境事務所による航空測量(2011年2月)及び深浅測量調査結果(2010年11月)をもとに作成

出典:「平成20年度都市部の国指定鳥獣保護区「谷津干潟」における渡り鳥類の生息環境の保全に関する研究委託業務報告書、平成21年3月、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合」